

達第七十六號

雇員傭人規則中左ノ通改正ス

明治三十八年十二月二日

海軍大臣 男爵山本權兵衛

第三條左表中倉庫丁ノ欄「水路部」ノ下ニ「海軍探炭所」ヲ加ヘ機關手ノ欄ヲ左ノ通改ム

機關手

海軍經理部、吳海軍病院、佐世保海軍病院、舞鶴海軍病院、海軍工廠造兵部武庫

別表水雷術練習所ノ欄給仕ノ部「四」ヲ「八」ニ改ム

正 誤

本年達第五百五十九號中「鑑鑿」ハ「鑑鑿」ノ誤ニ付訂正ス

海軍省副官

百三十六

海軍

2556

六

達第百七十七號

明治二十八年達第四十四號軍艦進水手續中左ノ通改正ス

明治三十八年十二月三日

海軍大臣 男爵山本權兵衛

第二條中「造船廠長」ヲ「海軍工廠長」ニ改ム

第四條 第二條ノ場合ニ於テハ船體ノ水面ニ向テ進行ヲ始ムルトキ奏樂ヲ爲シ其ノ奏樂終ルトキヲ以テ進水ヲ終ルモノトシ第三條ノ場合ニ於テハ船渠内ニ水ノ進入シ始ムルトキ奏樂ヲ爲シ船體ノ浮泛スルニ至リテ進水ヲ終ルモノトス

第五條 削除

第六條 進水ノ式場ニ參列スヘキ諸官ハ本手續書ニ明文アルモノノ外左ノ如シ

海軍省軍務局長

海軍艦政本部長

海軍艦政本部第一部長同第三部長同第四部長



百三十七

海軍

當該海軍工廠各部長及先任検査官

第八條中「艦政本部第三部長及當該鎮守府艦政部長」ヲ「艦政本部第三部長同第四部長當

該工廠各部長及先任検査官」ニ改ム

2557

昭和二年達第九七号
ニ依リ各モリニ停止



2558

達第百七十八號

海軍參謀官タルモノハ參謀長參謀ノ職名ヲ帶フルモノ若ハ特ニ命令ニ於テ規定アルモノ
ノ外左ノ如ク改メラル

明治三十八年十二月七日

海軍大臣 男 露山 本 禮 兵 衛

- 一 海軍軍令部長、次長
- 二 各國大使館附及公使館附海軍將校
- 三 海軍大學校教官ノ中將校三人

百二十八
海軍

達第百七十九號

海軍省處務規程中左ノ通改正ス

明治三十八年十二月七日

海軍大臣 男 爵 山 本 權 兵 衛

第十一條第十三號及第十四號中「公使館附」ヲ「大使館附並公使館附」ニ改ム

百三十九

海
軍

2559

國立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

達第百八十號

海軍駐在員監督服務規則中左ノ通改正ス

明治三十八年十二月七日

海軍大臣 男 爵 山本權兵衛



第二條中「公使館附武官」ヲ「大使館附若ハ公使館附武官」ニ改ム

第六條第二項中「本邦公使」ヲ「本邦大使若ハ公使」ニ改ム

百四十

海軍

2560

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

大正三年達第百
一十一号本表改正

改正

2561

達第百八十一號

艦艇類別標準別表ノ通改メラル

明治三十八年十二月十二日

明治三十二年達第百三十一号

海軍大臣 男爵 山本權兵衛

百四十一

海軍

(別表)

考備	艇水潜		艇雷水		艦逐驅		艦										類別	等級	計 畫 排 水 量							
	軍										戰艦		巡洋艦		海防艦					砲艦		通報艦		水雷母艦		
	一等		二等		三等		一等		二等		三等		一等		二等					一等		二等		三等		
海軍大臣ハ本表ニ依リ艦艇ノ類別並等級ヲ定メ若ハ變更ス									千噸以上		千噸未滿															
			百二十噸以上		百二十噸未滿七十噸以上		七十噸未滿二十噸以上		二十噸未滿																	

大正元年達第十
三考三本考改正



2563

達第百八十二號

艦艇類別等級別表ノ通定

明治三十八年十二月十二日

海軍大臣 男 爵 山本權兵衛

(別表)

水		艦 逐 驅		艦		軍										
				水雷母艦	通報艦	砲艦	戰艦	巡洋艦		海防艦	類別	等級	艦名	艇名	番號	
						一等		一等	二等	三等	一等	二等	富士、敷島、朝日、三笠、石見、相模、丹後、肥前、周防、淺間、常磐、八雲、吾妻、磐手、出雲、春日、日進、阿蘇、浪速、高千穂、嚴島、松島、橋立、笠置、千歲、津輕、宗谷、和泉、千代田、秋津洲、須磨、明石、新高、對馬、音羽、鎮遠、壹岐、扶桑、沖島、見高、金剛、比叡、天龍、葛城、大和、武藏、高雄、			
				豐橋、	八重山、龍田、千早、	筑紫、										
				東雲、叢雲、夕霧、不知火、陽炎、薄雲、雷、電、曙、漣、												
				龍、白雲、朝潮、霞、春雨、村雨、朝霧、有明、吹雪、												
				早月、潮、初霜、神風、彌生、子日、文月、如月、山彦、												
				敷波、卷雲、朝風、夕暮、若葉、春風、												
				小鷹、福龍、雫、白鷹、鷗、翼鶴、千鳥、雁、蒼鷹、												
				燕、雲雀、雉、鷺、鴉、鷓、鴒、鴻、												
				第二十一號、第二十四號、第二十五號、第二十九號、												
				第三十號、第三十一號、第三十二號、第三十三號、												
				第三十六號、第三十七號、第三十八號、第三十九號、												

百四十二
海軍

達第百八十四號

驅逐艦驅逐隊潜水艇潜水艇隊ニ關スル諸般ノ取扱ハ特ニ規定アルモノ、外水雷艇水雷艇
隊ニ準スル儀ト心得ヘシ

明治三十八年十二月十二日

海軍大臣 男 爵 山 本 權 兵 衛

百四十四

海軍

2565

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

達第百八十五號

海軍敬禮式中左ノ通改正セラル

明治三十八年十二月十二日

海軍大臣 男 島山本權兵衛

第三條 本式中艦船ト稱スルハ軍艦驅逐艦水雷艇潜水艇及排水量十五噸以上ノ船舟ヲ謂
ヒ舟艇ト稱スルハ軍艦ニ搭載スル水雷艇小蒸汽船端舟及排水量十五噸ニ滿タル船舟
ヲ謂フ

第十六條中「水雷艇ノ敬禮」ヲ「驅逐艦水雷艇及潜水艇ノ敬禮」ニ「艇隊司令」ヲ「驅逐隊司
令及艇隊司令」ニ改ム

第七十一條ノ二ヲ削ル

第七十八條中「水雷艇隊」ヲ「艇隊」ニ改メ第二項及第三項中「驅逐隊司令ノ乗艦」以下ヲ削
ル

第一百五十二條中「軍艦及水雷艇」並「軍艦一隻又ハ水雷艇」ヲ各「艦船」ニ改ム

百四十五

海軍

2566

達第百八十六號

艦艇及水雷艦隊現狀報告規則中左ノ通改正ス

明治三十八年十二月十二日

海軍大臣 男 露山 本權 兵衛



第一條中「軍艦」ノ下ニ「驅逐艦」ヲ、「水雷艇」ノ下ニ「潜水艇」ヲ加フ

第二條中「軍艦」ノ下ニ「驅逐艦」ヲ、「水雷艇」ノ下ニ「潜水艇」ヲ加ヘ「其ノ艇隊司令」ノ下

ノ割註ヲ「艇隊司令ノ附近ニ在ラサル艇又ハ艇隊ニ屬セサル艇ハ其ノ艇長又ハ直接之ヲ保管スル者」ニ改ム

第三條第二項中「水雷艇隊」ヲ「艇隊」ニ改ム

第一表中「軍艦」ヲ削ル

第二表中「第 水雷艇隊」ヲ「第 艇隊」ニ改ム

百四十六

海軍

2567

達第百八十七號

下士卒定員補充交代規則第十八條中「横須賀軍港所在ノ各廳勤務ノ下士卒」ヲ「横須賀軍港所在ノ各廳并大湊要港部勤務ノ下士卒」ニ改ム

明治三十八年十二月十二日

海軍大臣 男爵山本權兵衛

達第百八十八號

雇員備入規則別表中「大湊水雷團」ノ欄ヲ削ル

明治三十八年十二月十二日

海軍大臣 男爵山本權兵衛

百四十七

海軍

2568

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

達第百八十九號

海軍兵備品會計規程第三條別表中左ノ通改正ス

艦營需品ノ項分任兵備品會計官吏兵備品取扱主任ノ欄中驅逐艦括弧ノ下「主計官」ヲ
削リ被服、糧食ノ項分任兵備品會計官吏兵備品取扱主任ノ欄中「驅逐艦主計官」トアル
ヲ「驅逐隊主計長」ニ改メ治療品ノ項兵備品取扱主任ノ欄中「驅逐艦軍醫官」トアルヲ
「驅逐隊軍醫長」ニ改メ

明治三十八年十二月十二日

海軍大臣 男 爵 山本權兵衛

百四十八

海

軍

2569

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

明治四十年三月
十號ヲ以テ本令ヲ改
正スルニ
正 廢止



2570

達第百九十號

三等兵曹及水兵其ノ他之ト同様ノ服制アル下士卒ニシテ驅逐隊司令附及驅逐艦ノ定員タルモノ、帽徽章ハ其ノ乘組タル驅逐艦ノ名稱ヲ記シタルモノヲ使用セシム但シ當分ノ内軍艦名ヲ記シタルモノヲ混用スルニトテ得ル儀ト心得ヘシ

明治三十八年十二月十五日

海軍大臣 男爵 山本權兵衛

百四十九
海軍

達第百九十一號

關東州派遣職工給與規則左ノ通定ム

明治三十八年十二月十六日

海軍大臣 男 爵 山本權兵衛



關東州派遣職工給與規則

第一條 職工ニシテ關東州ニ派遣セラル、者ノ給與ハ別ニ定メタルモノヲ除クノ外本規則ニ依ル

第二條 關東州ニ派遣セラル、職工ニハ内地工廠出發ノ日ヨリ歸着ノ日迄賃錢ノ五割以內ノ増給ヲ支給ス

前項ノ増給ハ派遣地ノ狀況ニ應シ適宜其ノ給額ヲ定メ海軍大臣ノ認許ヲ受クヘシ

第三條 職工關東州ニ派遣中傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ服藥スルコト能ハサルトキハ其ノ間増給ノ半額ヲ支給ス

第四條 職工關東州ニ派遣中職工人夫給與規則第五條第五條ノ二第六條及第八條ノ場合

百五十 海軍

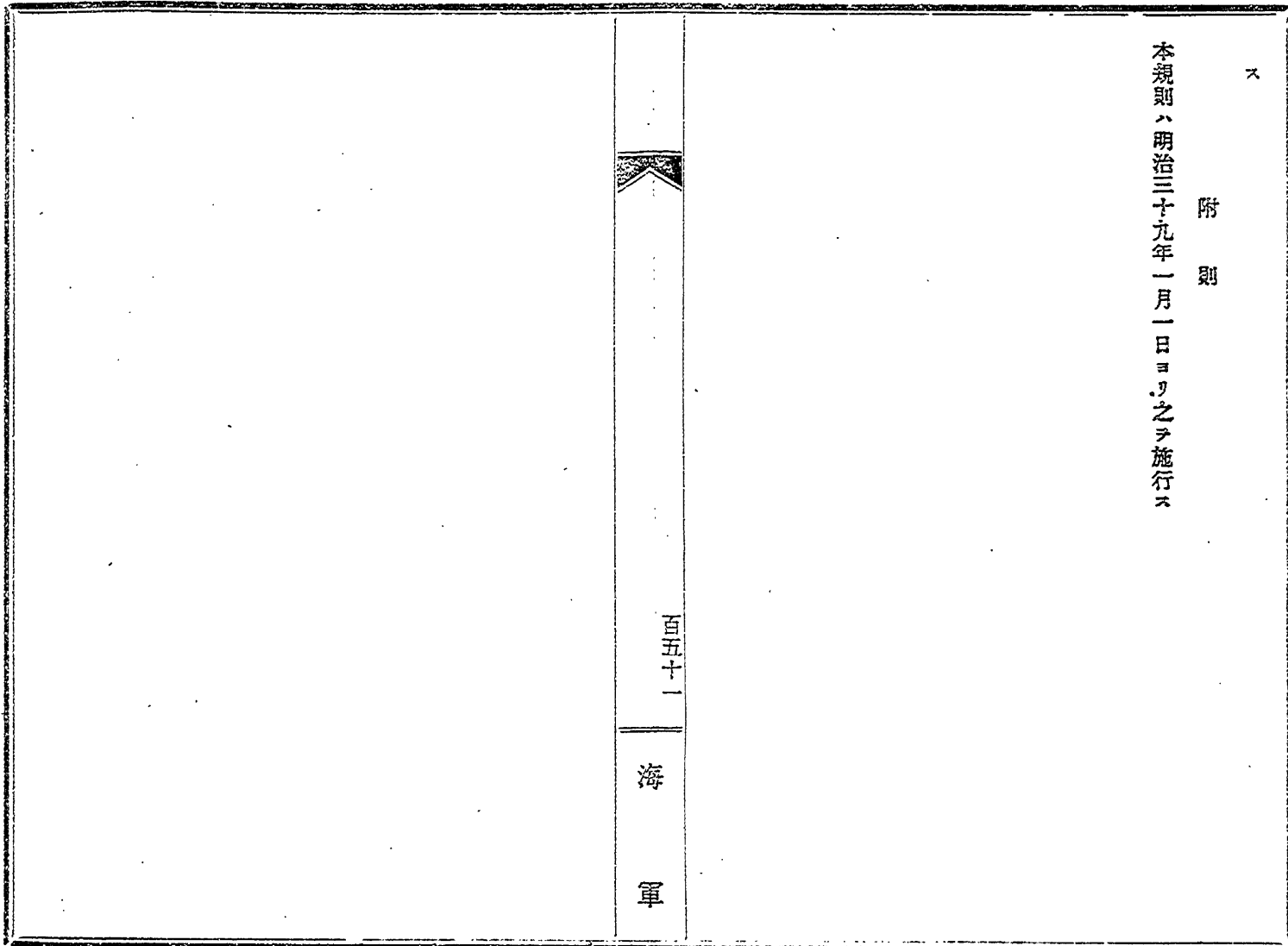
ニ於ケル賃錢、同規則第五條ノ三ノ場合ニ於ケル賃錢十分ノ一ノ手當並同規則別表中第一ノ場合ニ於ケル加給ハ本規則第二條ノ増給ヲ加ヘタル額ニ依ル但シ職工人夫給與規則別表中第九及備考第四項ノ場合ニ限リ該加給ハ支給ノ限ニ在ラス

職工人夫給與規則別表中第四及第五ノ加給支給方ハ北海道ニ準ス

第五條 關東州ニ派遣セラル、職工ノ内地ニ於ケル旅費ハ海軍内國旅費規則第七表表面內ノ旅行ニ在リテハ同表八等ノ定額、表面外ノ旅行ニ在リテハ第五表八等ノ定額ヲ支給ス但シ九人以上同行ノ場合ニ於テハ汽車料及船舶料ハ定價其ノ他ハ第六表八等ノ定額ヲ支給ス

前項俱書ノ場合ニ於テ手荷物ノ運送ヲ要スルトキハ其ノ實費ヲ支給ス
關東州内及關東州内地間ニ於ケル旅費ハ實費ヲ支給ス但シ食料、宿泊料、休憩料、汽車料、船舶料、車馬料、棧橋料、艀舟料及手荷物運送料ノ外ハ支給ノ限ニ在ラス

第六條 本規則ハ韓國及樺太島ノ沿岸ニ派遣セラル、職工ノ給與ニ之ヲ適用ス但シ韓國沿岸ニ在リテハ北緯三十七度以北ニ派遣セラル、者ノ外第四條第二項ノ規定ヲ適用セ



ス

附 則

本規則ハ明治三十九年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

百五十一

海 軍

2572

明治三十九年達第
百五十二號
本号廢止



2573

達第百九十二號

驅逐隊及驅逐艦職員勤務令左ノ通定ム

明治三十八年十二月十六日

海軍大臣 男爵 山本權兵衛

驅逐隊及驅逐艦職員勤務令

- 第一條 司令ハ其ノ隊ノ内規ヲ制定シ所屬長官ノ承認ヲ經テ之ヲ施行スヘシ
- 第二條 司令ハ在役驅逐艦ヲシテ常ニ役務ニ支障ナカラシムルコトヲ期スヘシ
- 第三條 司令ハ豫備驅逐艦ノ就役準備ヲ整頓セシムルコトニ注意スヘシ
- 第四條 司令ハ常ニ所屬驅逐艦ノ現狀並性質等ヲ熟知スヘシ
- 第五條 司令ハ部下ノ紀律ヲ維持シ之ヲ董督訓練シ各部器ヲ迅速正確ニ施行セシムルコトニ注意スヘシ
- 第六條 司令ハ自己ノ乘艦ヲ定メタルトキ及之ヲ變更シタルトキハ所屬長官及海軍大臣
海軍軍令部長ニ報告スヘシ



百五十二

海軍

- 第七條 司令ハ驅逐艦ヲ引率シテ航行スルトキハ航路ヲ指定シ其ノ安全ニ對シテハ自ら
責ニ任スヘシ
- 第八條 司令ハ驅逐艦ノ解役或ハ就役ノ手續ヲ了リタルトキハ之ヲ所屬長官ニ報告スヘシ
- 第九條 驅逐艦長ハ司令ノ命ヲ承ケ乘員ノ紀律ヲ維持シ之ヲ誘按訓練シ及其ノ艦ノ構造
性質等ヲ熟知シ諸兵器並諸要具ヲ整備シ艦ノ保安ヲ掌ルヘシ
- 第十條 驅逐艦長ハ司令ノ命ヲ承ケ戰闘、防火、防水其ノ他諸般ノ部署ヲ定メ之ニ對シ
乘員ヲ訓練シ精練ノ度ニ達セシムヘシ
- 第十一條 司令以下職員ノ勤務ニ關シ前諸條ニ掲ケサルモノハ適用シ得ル限り軍艦職員
勤務令ニ準據シ艦長ノ爲ノ規定ヲ司令ニ、副長ノ爲ノ規定ヲ驅逐艦長ニ適用スヘシ但シ
驅逐艦長ハ司令ノ命アルトキハ其ノ部下ニ對シテハ艦長ト同一ノ職權ヲ執行スヘシ
- 第十二條 獨立驅逐艦長又ハ司令ト同所ニ在ラサル首席驅逐艦長ハ司令ト同一ノ職責ヲ
有スルモノトス
- 第十三條 驅逐隊ニ編入セラレサル驅逐艦ノ醫務衛生及會計給與ニ關シ特令ナキトキハ
直屬長官ニ於テ部下相當職員ヲ指定シテ之ヲ處理セシムヘシ

達第百九十三號

海軍兵備品會計規程第三條別表艦營需品ノ項中

要港部參謀長

要港部主計長

ノ次ニ

煉炭製造所長

煉炭製造所主計長

ヲ加フ

本達ハ明治三十九年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十八年十二月二十~~九~~日

海軍大臣 男 爵 山本 權兵衛

百五十三

海軍

2574

達第百九十三號ノ二

雇員備入規則中左ノ通改正ス

明治三十八年十二月二十一日

海軍大臣 男爵山本權兵衛

第三條左表中倉庫丁ノ下各廳名ノ右ニ左ノ項ヲ加フ

竹敷要港部ニ於テ使役スル定員ハ別表ニ依ル

別表中見島ノ次ニ左ノ欄ヲ加フ

相 模	丹 後	肥 前	周 防	阿 蘇	津 輕	宗 谷
一	一	一	一	一	一	一
八	八	八	八	七	六	六
四	四	四	四	三	三	三
一	一	一	一	一	一	一

百五十三ノ二

海軍

同表備考ノ欄第六號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

七 本表ノ外竹敷要港部ニ於テハ倉庫丁三名ヲ使役スルコトヲ得

達第百九十四號

明治三十六年十一月達第百三十一號通常物品出納命令官會計官吏表中

採炭所應費及採炭所屬物品

採炭所長

主計長

ノ次ニ

煉炭製造所應費、採炭費及煉炭所屬物品並患者費所屬物品

煉炭製造所長

主計長

ヲ加フ

本達ハ明治三十九年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十八年十二月二十日

海軍大臣 男 爵 山本權兵衛

百五十四

海軍

2576

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

達第百九十五號

吳海軍工廠ニ於テ製造ノ子號裝甲巡洋艦ヲ筑波ト命名セラレ

明治三十八年十二月二十六日

海軍大臣 男爵山本權兵衛

百五十五

海

軍

2577

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

達第百九十六號

艦艇類別等級別表中巡洋艦ノ欄一等ノ下「阿蘇」ノ次ニ「筑波」ヲ加フ

明治三十八年十二月二十六日

海軍大臣 男 露山 本權 兵衛

百五十六

海軍

達第百九十七號

下士卒定員補充交代規則第十九條中「又同驅逐隊司令乘艦ノ増加下士卒ハ一組ヲ横須賀
鎮守府ヨリ一組ヲ佐世保鎮守府ヨリ一組ヲ舞鶴鎮守府ヨリ補充交代シ四組以上ヲ要スル
トキハ此順序ニ依リ各鎮守府ヨリ補充交代スルモノトス」ヲ「又驅逐隊司令附及水雷艇隊
司令附ノ下士卒ハ其驅逐艦水雷艇ノ在籍鎮守府ヨリ補充交代スルモノトス」ニ改ム
明治三十八年十二月二十八日
海軍大臣 男爵 山本權兵衛

百五十七

海軍

2579

邊第百九十八號

經綫類別等級別表中驅逐艦ノ欄内「若葉」ノ次ニ「春風」ヲ加フ

明治三十八年十二月二十八日

海軍大臣 男 爵 山 本 權 兵 衛

百五十八

海軍

2580

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

達第百九十九號

明治三十六年達第百三十四號海軍省所管收入及經費ニ係ル支出收入區分及委任任拂命令官、歳入徴收官、收入官吏別表中ニ左ノ一欄ヲ追加ス

本達ハ明治三十九年一月一日ヨリ施行ス

明治三十八年十二月二十九日

海軍大臣 男 爵 山本權兵衛

海軍煉炭製造所ノ支出收入

海軍煉炭製造所長

海軍煉炭製造所主計長

達第百號

明治三十二年達第二十一號委任任拂命令官代理規程別表中ニ左ノ一欄ヲ追加ス

本達ハ明治三十九年一月一日ヨリ施行ス

明治三十八年十二月二十九日

海軍大臣 男 爵 山本權兵衛

海軍煉炭製造所長

海軍煉炭製造所煉炭部長

百五十九

海軍

達第百一號

明治三十年達第百一號歳入歳出取扱規程第六十二條中「海軍採炭所」ノ下ニ、「海軍煉炭製造所」ヲ追加ス

本達ハ明治三十九年一月一日ヨリ施行ス

明治三十八年十二月二十九日

海軍大臣 男 爵 山本權兵衛

達第二百二號

海軍給與令施行細則第十五條第一項中「第十六條」ノ下ニ「第一項」ヲ加ヘ第四項中「ノ場
合ニ於テ所在不明ト爲リタル者ニ支給スヘキ俸給」ヲ「第二項ニ依リ家族ニ下渡スハ所在
不明ト爲リタル者ニ支給スヘキ俸給ニ限ル此ノ場合ニ於テ」ニ改ム

明治三十八年十二月二十九日

海軍大臣 男爵山本權兵衛

百六十

海軍

2582

達第二百三號

停年計算規則第六條中ニ左ノ號ヲ加フ

明治三十八年十二月三十一日

海軍大臣 男 爵 山本 權兵衛

十 明治三十七八年戰役中聯合艦隊附屬救護隊、艦隊補缺員、驅逐隊及艇隊補缺員並ニ戰時艦隊集合地港務部若ハ艦隊附屬港務部、津輕海峡臨時救護隊ニ勤務シタル者ノ勤務日數

百六十一

海軍

2583

國立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>